

コンサベーション・インターナショナル (CI) コンサベーション・コーヒー・ プログラム

コロンビア・コンサベーション・コーヒー

CONSERVATION
INTERNATIONAL



コーヒー栽培がもたらす生態系への チャレンジ

世界のコーヒー生産地の多くは、実は、生物多様性が豊かでありながら、破壊の危機に瀕している生態系に位置しています。そのため、栽培方法や栽培場所の選択が、環境に重要な影響を与えることになります。しかし、適切な農法や土地利用を行えば、コーヒー栽培は環境保全の非常に強力なツールとなることができます。伝統的なシェイドグロウン農法(熱帯雨林の木陰を利用した栽培方法)を維持すれば、動植物の保全に対して目覚ましい成果がもたらされることが分かっています。

コンサベーション・インターナショナル(CI)は、世界的なコーヒー企業との協働により、コーヒーのサプライチェーンにおけるすべての段階において生物多様性に対する配慮をとり入れ、環境問題を解決することを目指しています。

CIのコンサベーション・コーヒー・プログラムは、生物多様性ホットスポット内のコミュニティとの協働により、環境に配慮した生育方法によるコーヒー栽培に取り組んでいます。また、このプログラムは、CIが実施する技術支援やビジネストレーニング、環境教育などを通じ、国際市場の動向に左右される生産地の農家の生活の向上につながっています。

コロンビアのコンサベーション・コーヒー プロジェクト

CIのコロンビアにおけるコンサベーション・コーヒー・プロジェクト(CCCP)は、2003年より活動を開始しました。

カウカ渓谷でのプロジェクト:コロンビア西部のタタマ国立公園とセラニア・デ・ロス・パラグアス自然保護区の間のカウカ渓谷で、国立公園間にコーヒー生産を利用した小規模な「自然コリドー」を生みだすことを目指しています。

サンタンデルでのプロジェクト:コロンビア北部のサンタンデルでは、荒廃した放牧地を、多様な現地固有種を用いたシェイドグロウン農法のコーヒー農園に転換しました。現地パートナーより、4万人の人口をもつ近隣の町・ソッコロの水質および水量の向上が見られるとの報告がされています。

720世帯以上がこのプロジェクトに参加し、現在までに、5千ヘクタールのコーヒー生産地を含む、1万2千ヘクタールの保全に貢献してきました。森林破壊が進んだ結果、ジャガーやナマケモノなどの希少な動物の多くは、すでに生息地の大部分を喪失してしまいました。そのため、CCCPIは、これらの動物や他の危機に瀕した生物のために、新しく安全な生息地の形成に取り組んでいます。

COLOMBIA CONSERVATION COFFEE



コンサベーション・ コーヒーとは？



コンサベーション・コーヒー・プログラムは、生物多様性ホットスポット内にあるコーヒー生産地において、生物多様性を保全するためのCIの戦略のひとつです。コンサベーション・コーヒーのプロジェクトは、生産者とともに、生物多様性の保全と生産者の生活およびコミュニティの生計の向上に取り組むための手法として、**コンサベーション・コーヒー・ベスト・プラクティス(CCCBP)**を開発しました。CCCBPは各地域のニーズに応じて、適用・管理されています。各国のコンサベーション・コーヒーのパートナーは、以下のようなコーヒー生産とマーケティングにおける継続的な努力を通じて、地域の保全戦略に貢献しています。

- ・ 危機にさらされている動植物種の生息地の持続的な保全を促進する
- ・ 森林や他の原生生息地の開拓を防ぐ
- ・ 化学物質への依存を中止、もしくは減少させる
- ・ 水源地および水質の保全に努める
- ・ 土壌浸食を防ぎ、地力を高める
- ・ 荒れた土地への森林再生、もしくは生産性の高い農地へ転換する
- ・ 保全地域を守り、環境に関連した法規制に従う
- ・ コーヒー生産者への公正な報酬を確実なものとするために、商取引の透明性を高める
- ・ 生産、加工プロセスにおける付加価値の向上
- ・ トレーサビリティの確立

CIはカウカ渓谷地区北部において、41件の農家で構成される組合と連携しました。これらの農地は、高度1550 - 1850メートル、年平均降水量2,500ミリメートル、年平均気温22度の地域にあります。平均生産量は、カウカ渓谷で10コンテナ(フェアトレードまたはレインフォレスト・アライアンス認証獲得)。サンタンデルでは8コンテナ(レインフォレスト・アライアンス認証)そして。しかしこれら各地域における潜在生産能力は35-40コンテナあります。

農家は、各自生産・洗浄・乾燥工程を行っています。コーヒー豆の乾燥は、中庭でされるか、可能な場合はトンネル乾燥機が使われます。農家は、乾燥させたコーヒーを組合に搬送し、そこで、他の組合から運ばれたコーヒーとブレンドされ、高品質のカウカ渓谷ブレンドが生産されます。組合は、CCCPを通じてトレーサビリティと透明性のシステムの確立に努めており、コーヒー豆はカップングによって、カウカ渓谷の品質基準に適合していることが保証されます。



コーヒー生産地全体を守るために

再植林活動: コンサベーション・コーヒー・プログラムに参加する農家は、彼らの農地において原生種の木陰栽培地を2倍にするため尽力してきました。プロジェクト開始以来、3万本を超える原生種の木陰栽培用の樹種が植えられ、さらに今年度3万本を植林することを目標にしています。720世帯以上がこのプロジェクトに参加し、5千ヘクタールのコーヒー生産地を含む、1万2千ヘクタールの保全に貢献してきました。

生物種の保全: 絶滅の危機に瀕しているメガネグマやマウンテン・ライオンなどの多くの動物種が、CCCPによって直接的な恩恵を受けている地域やその周辺地域で確認されました。カウカ渓谷プロジェクトでは、エメラルドオオハシ、ホエザル、オマキザル、ジャガーや狼、ナマケモノのような、他の重要な動物種の生息も確認されています。ジャガーやナマケモノなどの希少な動物の多くは、すでに生息地の大部分を失ってしまいました。そのため、まず、これらの生物がコーヒー生産地に再び戻ってくることを目指しています。爬虫類および鳥類の生息数調査では、彼らが自らの生息地を求め、コーヒー栽培地帯にもどってきたことが報告されています。

農家への恩恵: CCCPを通じて、CIは、スペシャリティ・コーヒーを取り扱うバイヤーと生産農家をリンクさせることを目指しています。このプロジェクトは、技術支援やビジネストレーニング、環境教育などを通じ、国際市場におけるコーヒーの低価格化に直面している農民の生活を向上させることができました。また、CIは**ヴェルデ・ヴェンチャーズ基金**を通じて、低利融資を農家へ提供する支援も行っています。

CIは、世界のコーヒー産業が、生物多様性が危機にさらされている地域の保全に有効な戦略を作り上げることを目標にしています。

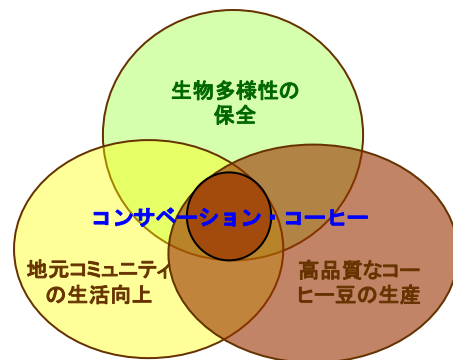
- ・コーヒーの調達決定時に、保全評価基準を取り入れること
- ・環境的に持続可能なコーヒー生産を推進する公共政策を推進し、インセンティブを形成すること
- ・コーヒー生産に影響を受ける生物多様性ホットスポット内の地域において、保全地域の拡大に向けた投資目標を設定し、地域ごとの保全計画に活動を取り込むこと
- ・コンサベーション・コーヒー・プログラムが実施されている地域への財政的、技術的支援を行うこと
- ・これらのプロジェクトで生産された高品質かつ持続可能なコーヒーのマーケティングを支援すること



コロンビア国立コーヒー生産者連合会(FNC)は、CIコロンビアの世界中のバイヤーへコーヒーを輸出するための輸出事業パートナーです。FNCは、特にロジスティクスに配慮し、新鮮なコーヒーを世界中のお客様にお届けすることに努めています。

ヴェルデ・ヴェンチャーズ基金:

生物多様性の保全上重要な地域における小・中規模事業者への低利融資を実施する基金。スターバックス社、地球環境ファシリティ(GEF)などからの出資を基に発足。CIが生物多様性保全戦略に沿って管理・運営している。



この資料に関するお問い合わせ:
 コンサベーション・インターナショナル
 日本プログラム
 TEL: 03-6911-6640
 E-mail: ci-japan@conservation.org